

ある党員の履歴書（1975）

ZYCIORYS

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 ポーランド

時間 47分

初公開日 1981/07

公開情報 アテネ・フランセ

【解説】

「デカローグ」シリーズを残し、惜しまれながら世を去ったキエシロフスキーの初期の短編ドキュメンタリー。ポーランドで“雪解け”の以前から、熱心な共産党員として地道に活動してきた一労働者が、70年代初頭の開放的雰囲気の中で、次第に疎んじられるようになる。今でも党大会に呼ばれるが、かつてのように彼を重んじる者はいない。しかし彼は、それをほとんど無抵抗に受け止め、賑やかな大会パレードに参列するのだった。映画は静かに、自らと党の歴史を回想する真摯な初老の男のモノローグを通じて、時代と大衆のかかわり、政治の虚無を声高にではなく訴える。そうしたしがらみと離れ、まず、人が人でいられることの実現を強く信じ、そして望んだキエシロフスキーの透徹した姿勢は既にこの頃よりのものだったのだ。

【クレジット】

監督 クシシュトフ・キエシロフスキー Krzysztof Kieslowski

製作 ヘンリック・ヤントオス

撮影 ヤツェク・ペトリツキ Jacek Petrycki

T・ルシィネク